

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
真下評価人	<p>1 開会</p> <p>2 外部評価人紹介</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 1事業目の外部評価</p> <p>【対象事業：「中小企業関係融資」（産業観光部 産業振興課）】</p> <p>まずは事業概要を担当課の所管課からご説明いただきたいと思います。</p> <p>①事業概要の説明</p> <p>—事業概要について説明（産業振興課長）—</p> <p>②質疑応答・議論</p>
真下評価人	<p>ありがとうございます。それではこれより質疑応答・論議に入ります。</p> <p>何か質問等がありましたら、挙手をしていただくようお願いします。</p>
柳内評価人	<p>今回のこの事業の対象が、市内において事業を営む中小企業者・市内において新たに事業を開始しようとする者とのことですが、別紙で説明された6種類の融資の貸付金利は、金融機関から独自で借りる融資よりも市の方が安めに設定されているのでしょうか。</p>
産業振興課担当	<p>金融機関独自の融資であるプロパー融資については、金融機関によって利率は異なりますが、近年は1.0%を下回るような金利で推移していると伺っています。ただし、リスクが高い中小企業者もおおり、また、プロパー融資は保証が付かない融資のため、保証が付かない分リスクが高い中小企業者には利率を高め設定して担保を取っています。そのため、プロパー融資の場合、リスクが低い中小企業者は利率が低くなり、リスクが高いところに対しては利率が高くなります。金融機関や中小企業者によって利率は様々となります。</p>
柳内評価人	<p>銀行の融資審査に対して市の融資が有利なのかをお聞きしたかったのは、</p>

産業振興課担当	<p>融資の件数が減っているというのは、利率も一つの要素かもしれませんが、わざわざ市に頼まなくても金融機関が貸してくれるということであれば、結局そっちに流れてしまうし、数が減少するのも当然かなと思います。</p> <p>原資の一部となる預託金を拠出するとありますが、これは貸付金の全額ではなく一部ととらえて良いでしょうか。</p> <p>預託をする中で、取扱金融機関の方で融資をしていただくようお願いしているものです。</p>
柳内評価人	<p>いわば保証金のようなもので、これは減るわけではないですね。不払いがでたときは保証協会の保証があり、回収を行うということでしょうか。</p>
産業振興課担当	<p>回収が難しくなったときは、金融機関から保証協会に債権が移る形になり、保証協会の方で回収を行う形となります。回収できた金額の中で、負担した市や金融機関や保証協会などの負担割合に応じて返還される仕組みとなっています。</p>
柳内評価人	<p>比較的市に対してはリスクの少ない事業ではないかと理解しています。中小企業の側から見ると、もう少しリスクを取って、又は金利を安くして借りやすくして、というのが使う側の思いではないかと思います。平成30年度は利率を下げて、そういう方向に舵を切られているようなので、方向性は悪くないと思いますけれども、さらにもっとPRをするなどされたら良いのかなと感じました。</p>
仁平評価人	<p>この案件について、貸出件数を増やすことに主目的を置くべきではないのかなと思いますが、年々減ってきているということで、まず、金融機関と埼玉県、そして市との差別化というのは、主に分かりやすく言うとどこにあると思いますか。</p>
産業振興課担当	<p>補足資料の「7 課題への取組状況」に記載したとおり、金融機関へのアンケート調査において、市とその他の融資制度をどのように差別化していくのが良いか、という設問を設け調査を行ったところ、明確な棲み分けはないという回答があり、中小企業者にとっては選択肢が多い方が望ましいという意見がありました。また、金融機関にとっても、営業する際の商品が多くあった方が良い、という意見もありました。しかしながら、それだけでは明確な棲み分けが解らなかつたため、どういう方を対象としていますか、という設問も設けました。その結果、リスクが低いところはプロパー融資を使い、リスクが比較的高いところは行政の制度融資を使うという傾向がありました。その中で市と県の棲み分けについては、よりリスクの高い方は市を使い、リ</p>

<p>仁平評価人</p>	<p>スクが低い方は県を使うという傾向がありました。</p> <p>川越市の中小企業者から話を聞くこともありますが、受付処理期間を1週間程度から2日程度に変更したということで、迅速に対応していただけたところが良いところではないかという意見もありました。</p> <p>見直しを行ってからさほど期間は経過していませんが、これまで、市としてどのように周知を行い、また、これからどのように周知を行っていくかを教えていただけてよろしいですか。</p>
<p>産業振興課担当</p>	<p>これまでは融資のパンフレットなどを課の窓口に置いたり、またはインターネットなどで周知を行っていましたが、今後は、融資担当者会議の場などで金融機関担当者に積極的に制度の変更内容の案内をさせていただきたい。また、金融機関の方から過去に使ったことのある融資を紹介するという声もあり、そういうところにも入っていけるように丁寧な説明をしていきたいと考えております。</p>
<p>産業振興課長</p>	<p>少し追加しますと、金融機関の担当者から話を聞くと、県内の各支店で異動があるようですが、どこの支店に異動をしても県制度融資であればどこでも使える。しかし、市の制度融資の場合、異動先の自治体の融資を一から覚えなさいといけません。そうすると県制度を覚えてしまえば楽だ、ということもあるようです。</p> <p>先ほど仁平評価人から、件数が多ければ良いという訳ではないとの話がありました。おっしゃる通りだと思っておりますけれども、やはり市がどういう方を応援していくのか、そのためには今後どのような制度としていくべきなのかをきちんと見極めて、制度設計をしてやっていくべきだと思いますし、そういう特徴を出してPRをしていけば、もっと積極的に使っていただけるようになるのかなと考えております。</p>
<p>飯島評価人</p>	<p>2つほど質問があります。申請して概ね2日程度に受付処理を迅速化したとありますが、市に提出して、銀行にあっ旋するのが2日程度なのでしょうか。それとも、その2日間の間に、市が銀行と相談して、融資に関する審査が通ったという状態になるのが2日間なのでしょうか。</p> <p>もう1つは、すでに返済が終わっている方もいると思いますが、市の制度融資を使って、返済が出来なかった事例はありますか。</p>
<p>産業振興課担当</p>	<p>1つ目の質問については、「2日程度」というのは、中小企業者が市へ申請し、市が融資のあっ旋の決定をするまでの期間が2日程度ということに。また、中小企業者は市に申請する前に、融資取扱金融機関と事前相談をしたうえで市へ申請する流れとなっています。</p>

	<p>2つ目の質問については、当初の借入期間内に返済をする方もいらっしゃいますが、返済が滞っている方や当初の返済額よりも少額で返済している方もおり、当初の借入期間を延長している方もいらっしゃいます。そのような方は信用保証協会に対し、金融機関経由で条件変更手続きを行っていただきます。また、返済が出来なくなってしまう方も中にはいらっしゃいます。このため、代位弁済という形で、中小企業者が払えなくなった債務残高を信用保証協会が肩代わりをして、その一部を損失補償割合に応じて市に請求する流れとなっております。代位弁済をして、返済ができなくなってしまった件数は、平成29年度は4件ほどありました。</p>
<p>本田評価人</p>	<p>昨年度アンケートを行ったとのことで、人数を把握されるのは良いことだな、と感じました。質問ですが、ウエスタ川越3階に予約制の中小企業診断士の相談業務を行っているのかについてお尋ねしたい。また、融資を受ける方は何月ごろに申し込まれることが多いか、傾向があれば教えてください。</p>
<p>産業振興課長</p>	<p>ウエスタ川越で行っているのは、いわゆる経営相談と呼ばれるもので、中小企業者、又は新規創業をされる方などから様々な相談があります。そのようなニーズに対応して、中小企業診断士から直接アドバイスをいただける制度となっています。中小企業診断士協会と連携をいたしまして、適宜、相談したいという応募があった時点で、市が間に入り、中小企業診断士をマッチングして相談に応じております。</p>
<p>産業振興課担当</p>	<p>2つ目の融資申込のおおむねの時期については、過去の実績としては、平成26年度は3月～4月の年度末に申請が多く、平成27年度も同様に年度末、又は年末。平成28年度も年度末に申請が多かったため、傾向としては、年末や年度末に集中していると思います。</p>
<p>本田評価人</p>	<p>もし傾向があり、ある程度の人数がいるのであれば、年に1度、例えば説明会を開くことも周知の方法になるのではないかと思います。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>いくつか質問をさせていただきたいのですが、融資を行うにあたって、これまで融資をしてきた対象がどのような傾向にあるのか、調査などはしていますか。例えば業種だとか、経営者の年齢層だとか、実態がわかるようなものは何かありますか。</p>
<p>産業振興課担当</p>	<p>毎年2月に開催している融資担当者会議の場で、資金使途別の割合や業種別の割合などを実績資料として報告しています。資金使途別の割合としては、運転資金の利用者が8割以上を占め、設備資金は1割弱といったところです。業種別の割合については、年度によって傾向は違いますが、概ね建設業と製</p>

池田評価人	<p>造業で半数以上は占めているという状況です。</p> <p>事業承継の問題、創業の問題、創業にあたっての資金調達の問題、テーマの中にいくつか言葉としては出てきましたが、現実的な貸し出しの対象としてはあまり出てきていないということではよろしいでしょうか。先ほど伺った内容では、運転資金がほとんどという話でしたが。</p>
産業振興課担当	<p>現状は、事業承継に係る支援制度はありません。</p>
池田評価人	<p>いくつか融資に狙いはもっていると思いますが、現状をそのまま追求するのか、広い意味での街の活性化という意味で創業を促進させるための手法、あるいは、事業承継、歴史のある街にとっては重要なことになってくるとは思いますけれども、そういったところにスポットをあてた融資の仕組みなどを作ることによって、より良さが出る可能性があるのではないかなと思います。</p> <p>また、2つ目の質問として、先ほど不渡りになってしまったケースがある、当然このリスクは避けたいところではありますが、平成29年度で4件とのことでしたが、傾向として、増減や業種はありますでしょうか。</p>
産業振興課担当	<p>代位弁済に係る実績資料を持ち合わせていませんが、件数から言いますと、平成27年度は42件、あくまで42件は新規の融資になりますので、それとはまた別の話にはなりますが、平成27、28年度はやや代位弁済した件数が多かったという所感があります。平成29年度は2月に初めて代位弁済の請求が4件ほどまとめてきました。4件中3件は同じ方からで、同じ方から別々の融資を受けていて、という形でした。業種業態、年齢層などは把握はしていません。</p>
池田評価人	<p>上手くいかなかった案件、リスクを負わざるを得なくなったケースを分析するというのは、次の一手として必要ですし、貸し手にとってだけでなく、借り手にとっても、そういったことを目的としていたはずはないので、何が本来求められていて、何をすればよかったのかを可能ならば解っているとだいぶ違うと思います。</p> <p>また、市内の中小企業が、何を求めているかというのは、一番最初に戻ってきてしまいますが、おおまかにはお金が必要ということなのでしょうが、それをするにあたって踏み込んだ形のアドバイスがもしかしたら必要なのかもしれないなと思います。そういった総合的なアドバイスの仕組みは、市は窓口にはなっていないのでしょうか。金融機関がそのような役割を果たしているのでしょうか。</p>
産業振興課担当	<p>創業の場合であれば、創業ワンストップ窓口として、金融の経営相談や創</p>

池田評価人	<p>業の案件に係る相談は、全般的には川越商工会議所が担っています。融資に係るアドバイスなどは、市の職員の場合、専門的な知識を有していませんので、専門員の方がいらっしゃる川越商工会議所にお問い合わせの状況です。また、融資のパンフレットなどで創業ベンチャー支援センターさいたまなどの機関を紹介しております。</p> <p>埼玉県在住の方が色々な街で創業する可能性があるというときに、川越市はこんなに有利です、ということは一つのポイントには当然なるだろうと思います。先ほどは、国・県・市のバランスの説明をしていただきましたが、川越市が他の市より融資面で有利な点があれば教えてください。</p>
産業振興課長	<p>今現在の融資は、冒頭で説明しました高度経済成長期の資金需要に対応した制度がそのまま残っているのではないかと思います。関連して、先ほど件数の問題ではないという意見もいただきましたが、川越市がこういうことを応援しているんだという、市の施策や方針などを融資のなかに取り込んでやっていく必要があり、それが差別化にもつながり、県制度や民間との役割分担にもなると考えております。また、特に創業の融資に関して言えば、スタートアップの時期が一番資金が必要ですし、事業が軌道に乗るまでというのは、なかなか運転が難しい時期ですので、これは一つの考え方でまだ実現の検討も十分できてはおりませんが、最初の数年間は利子の補助を行う、という制度も考えられるのではないかな、と思っております。現在はこの6種類の制度の中で、特にそういった方針を明確にした制度はございませんが、今後、必要な資金を必要な時に使えるような制度にしていきたいと考えております。</p>
真下評価人	<p>この制度に関しまして、先ほど来、貸付件数が減ってきているという話がありましたが、他の自治体でも同じような傾向があるもののでしょうか。つまり、川越市だけ突出して件数が下がっているのか、又は全国的に、少なくとも県内で同じような傾向にあるのかを教えてくださいたいと思います。</p>
産業振興課担当	<p>今月、県内10万人以上の市に対してアンケート調査を実施し、その中で実績等を確認したところ、大きく二つに分かれまして、実行件数が100件を超える自治体もありますが、ただそういったところは本当に一部でして、多くのところが川越市と同様に低い件数で推移している状況です。さいたま市、狭山市、新座市が件数の多い自治体となっています。</p>
真下評価人	<p>今年度から審査の方式を改めたということで、審査に係る日数を短縮したということですが、これは他市と比較しても早い方と認識して良いのでしょうか。</p>

産業振興課担当	<p>昨年度、審査に係る日数を短縮するという検討をしている中で、さいたま市、川口市、越谷市などの近隣自治体にも状況の確認を行ったところ、1週間程度かかるというところもあれば、2日程度というところもあり、自治体によって状況は様々でした。</p>
真下評価人	<p>いずれにしましても、2日というのは他市に比べても早い、という理解で良いですか。</p>
産業振興課担当	<p>良いと思います。</p>
真下評価人	<p>件数は問題ではないというのはその通りだと思いますが、ここまで大幅に件数が減少してしまうと何かあったのではないかと感じてしまう。普通に考えれば、企業の側、実際に融資を受ける側での必要性が下がったか、この金利では嫌だということやそっぽを向かれるようになったか、必要な融資が無いか、ということが考えられますが、どのように分析しているのか教えていただければと思います。</p>
産業振興課長	<p>市は固定金利というなかで、民間の金融機関では1%を切っているところもあり、そういったところ利用していることが1点考えられます。また、10万人以上の県内21市の総件数として、平成27年度は1,236件あったのが、平成28年度は957件と、約280件の減少となっています。また、平成29年度は1,008件と少し持ち直してはいますが、総じて減ってきているということがあります。これについても、銀行の業績自体が回復しつつあるなかで、資金的には足りている部分があるのかもしれませんが、ただ、ここで生産性革命等が騒がれており、企業の設備投資等が徐々に進みつつあり、また税制の優遇もされているため、少しの間、資金需要が増えていくのではないかと感じております。</p>
真下評価人	<p>融資を受ける対象ということで、先ほど運転資金が8割という話と、建設業、製造業で半数という話があったと思いますが、この傾向というのは一般的なものなのでしょうか。つまり、川越市特有のものとして、建設業、製造業の融資が多いとみなすべきなのか、それとも、一般的なものとしてそういった傾向があるのか。と言いますのも、基本計画に書いてある内容を見ると、川越市は各産業がバランスよく展開できている自治体ではないかと思えます。それは他市に比べてもそうだろうと思います。そうした中で、建設業、製造業の融資の希望が多いというのは、同じような傾向が他の地域、あるいは国全体としても見られるものなのかを確認しておきたい。</p>
産業振興課長	<p>そのような業種の内訳などは、他市の状況を分析したことはございません</p>

<p>真下評価人</p>	<p>が、先ほど運転資金が多いという話をしましたが、運転資金としては、例えば工場で言えば原材料等になるかと思われるため、そういうところで資金需要があったのではないかと思います。そのように考えると、本市だけの傾向ではなく、全国的な社会経済情勢を踏まえたような資金需要に対応したものであるのであれば、同じ傾向があったはずだと考えます。</p> <p>近年、建設業・製造業は必ずしも景気が良い方ではなかった。特に、平成25～26年度はそのような傾向があったと思いますので、そういったものが数字に表れたのではないかと。むしろ、川越市の中で比較的件数の多い、卸売りや小売りといったものに運転資金が必ずしも多くはない、という話でしたので、現状の産業構造の転換というものに反映されているのではないかと思います。つまり、景気の良くないところ、先ほどの話ですとそういったところになかなか低金利で融資している金融機関は少ないだろうと考えられます。そう考えると、自治体の制度融資はまだ求められていると考えた方が良いのかなと思いつつ、その点の認識をもう一度確認させていただければと思います。</p>
<p>産業振興課担当</p>	<p>アンケート調査の結果などを踏まえ、市の制度融資としては、民間のプロパー融資で対応できないようなリスクがある企業に対し、需要があるのではないかと思います。また、新規創業ということで、新たに事業を始める方に対して、金融機関も力を入れていく分野かとは思いますが、こちらについても市が支援する必要がある分野なのかなと考えます。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>金融業界に政府がどれだけ関わっていくべきなのか、ということはかなりグレーな部分だと感じています。先ほど話に出てきましたが、情報の問題、どれだけ情報を川越市として持っているか、どんなアドバイスができるか、どちらにも限界があると思います。ですので、実際に本当に必要なのか、ということも立ち止まるべき内容だろうと思います。川越市として何をどうするか、ということの整合性を考えながら制度設計をすると、より融資の形、目的が明確になってくるかと思っています。</p>
<p>産業振興課長</p>	<p>先ほども申し上げたとおり、川越市では創業に力を入れていきたいと考えているため、今後、融資を受けて創業をするなら川越市と思って貰えるように、融資の側面で検討していきたいと思っています。また、生産性の向上といったことや産業革命も進んでいるため、そうした部分に今後需要が出てくるかと考えますので、対応できるような制度について、引き続き考えていきたいと思っています。</p>
<p>真下評価人</p>	<p>これまで実績としてあまり数が多くない「小規模企業者セーフティ融資」</p>

産業振興課担当	<p>「新規創業者支援資金融資」「中小企業認証等取得資金融資」についての、広報、周知活動はどのように行っていますでしょうか。</p> <p>他の制度と同様、ホームページでの周知、窓口でのパンフレット設置、金融機関の窓口へのパンフレット設置依頼などにより、広報活動を行っているのが現状です。特に制度間で差異は設けておりません。</p>
真下評価人	<p>中小企業振興基本条例の中で、市としてやらなければならないこととして、「経営基盤の強化」「経営革新」「創業支援」があるかと思います。「経営基盤の強化」「経営革新」については、「特別小口無担保無保証人融資」「中小企業一般貸付融資」「中小企業中口事業資金融資」で対応できる部分がおそらく非常に大きいと思います。やはり、創業支援というところで、新規創業者支援資金融資は過去に実績もあり今年度も利用はありそうだということで、せっかく基本条例の柱になっているということで、そこに何かアプローチできないかなと思います。</p> <p>それでは、評価人の皆さま、評価と付帯意見の記入をお願いいたします。</p> <p>③評価結果発表</p>
真下評価人	<p>それでは、各評価人から、まずそれぞれの点数を仰っていただいた上で、ご意見をいただければと思います。</p>
仁平評価人	<p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性4点、実効性3点、方針妥当性5点、合計21点としました。</p> <p>制度の周知方法などの工夫が重要であるとともに、制度が持続可能なものであって欲しいと考えております。マイナス金利が時流ではありますが、融資希望者にとっては、迅速化されたこの制度は非常に有用であると考えます。見直しが求められる事もあるかと思いますが、市として雨が降ったら傘を期待しております。</p>
本田評価人	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性5点、合計21点としました。</p> <p>融資制度の選択肢が多いということは良いことだと思いますので、ニーズを把握し、他の融資との差別化を図っていくことが大切かと考えます。また、周知方法については、先ほど銀行の方が話をされるということでしたが、県の方は説明できるけれども、市の方は説明できないというのはもったいないと思います。きちんと内容が伝わるようにすることはすぐ実施できると思い</p>

柳内評価人	<p>ます。</p> <p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性5点、合計20点としました。</p> <p>中小企業者あるいは創業を考える者にとって、身近な制度であると考えます。そのためにも、申請や審査の簡便性や利益重視の民間金融機関と違い、リスクや景気にかかわらず安定して融資が受けられることがメリットだと考えます。平成30年度に一部見直しが実施されたが、その方向性は良いと思います。ただ、融資を受ける側で見ると、6種類の制度や用途が限定されているように見えるため、見直しをしたらどうかと考えます。</p>
飯島評価人	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性4点、合計20点としました。</p> <p>時代適合性は、制度設立時の高度経済成長時と景気・時代背景は異なりますが、今の時代に企業を支援することは、適合していると考えます。行政関与の妥当性については、行政が応援、支援をしていただきたいと思います。融資を受けたい人たちにとっては、2日間の審査で有効だと思うが、実効性も含めて、ただ、運転資金を融資する、創業資金を融資するのではなく、川越の街を豊かにする融資の在り方へとシフトしていただきたい。また、周知、広報の工夫をさらにしていただきたいと思います。創業支援なら川越、女性起業なら川越、伝統・文化支援事業なら川越というような融資にして、川越スタイルをつくっていきましょう。</p>
池田評価人	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性5点、合計23点としました。</p> <p>この事業は、創業、事業継承などポイントをしばってアピールすること、川越の方向性との整合性・連動性、融資の狙いの明確化、が求められているのではないかと思います。その限りにおいて、市が金融にコミットする意義が出てくると考えます。本当にこの制度が必要か、という見直しをどこまで深く考えるか。微調整で乗り切れるところとそうでないところがあるかと思いますが、スタートから考え直す姿勢が大事だと思います。</p>
真下評価人	<p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性4点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性5点、合計21点としました。</p> <p>これが行政の分野かと問われれば難しいところではあるが、中小企業が多く、多岐に業種がわたる川越市の産業構造を考えれば、むしろ積極的になるべきところもあると思う。現在は景気がそれなりに上向いていることもあり、件数が減っているが、いずれ必要になる場面もあると思われるので、制度の洗練を続けてもらいたい。また、今後は創業支援への注力もお願いしたい。</p>

	<p>中小企業関係融資の合計点は126点となりました。評価としては、事業の在り方の妥当性は極めて高いという判定となりました。これはあくまで参考であるため、今後とも、より良い制度を作ることに努めていただきたいと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">－ 休憩 －</p> <p>3 議 事</p> <p>(2) 2事業目の外部評価</p> <p>【対象事業：「観光事務」（産業観光部 観光課）】</p>
真下評価人	<p>それでは、本日の2事業目です。まずは所管課から事業概要の説明を15分程度でお願いします。</p> <p>①事業概要の説明</p> <p>—事業概要について説明（観光課長）—</p> <p>②質疑応答・議論</p>
飯島評価人	<p>3つ程質問があります。5. 実施にかかるコスト、支出の負担金、補助及び交付金で平成30年度がかなり金額が多くなっていますが、これは3市で行う小江戸サミットの開催地が今年川越になるということが主なものと考えて良いのでしょうか。</p> <p>各地で観光キャンペーンを行っていますが、行うことによって、川越に来たという効果というのが評価できているのかどうか。</p> <p>もう1点が、市の観光課と観光協会の違い、すみ分けを教えてくださいと思います。</p>
観光課担当	<p>まず、1点目の負担金でございますが、ご質問の通り、今年は川越大会ということで、負担金が増加した要因が一つございます。それと、もう一つの要因が平成30年度から鉄道3社、川越にはJR、東武鉄道、西武鉄道、3社が乗り入れているんですけれども、鉄道3社と本市の4者で連携事業を行おうという取組がございます。その負担金がありまして、平成30年度から増</p>

<p>飯島評価人</p>	<p>額となっております。</p> <p>続いて観光キャンペーンの効果ですが、それぞれ1回1回のPRによってどれだけの人が来たかということは正直測定するというはしておりません。キャンペーン後にいつ川越に来たかということは分かりませんので。ただトータルとして観光客は、緩やかではありますが増えていきますので、着実に実を結んでいるのではないかと捉えております。</p> <p>3つ目の観光協会のすみ分けですが、基本的には観光協会は民間という部分もあるので、行政ではやりづらい部分や縛られる部分がありますので、裾野を広げる意味で、観光協会には民間のノウハウを使って事業を進めてもらうというところがあります。</p> <p>キャンペーンを多くのいろいろなところで行っているなという印象があるので、行ったことによる結果が評価につながる形にできた方が良いと思います。効率良く、効果が高くなるようにしていただけたらと思います。</p>
<p>仁平評価人</p>	<p>成果指標のところに観光客数の合計人数が書かれております。総観光客数の中で、例えば一日の消費額や宿泊観光割合だとか、ここには外国人観光客割合がありますけれども、そういったところの細かいところを指標としてみていないのか。</p> <p>また、平成30年度の観光客数の目標値がなぜ低いのか。</p> <p>海外から川越への観光客は台湾人の比率が一番高いということは知っていますが、海外に対してのキャンペーンというものもおそらく行われていると思いますが、資料を見る限りではわかりませんでしたので、今後どう進めていくのかというところを教えてください。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>まず、宿泊や消費額は第二次川越市観光振興計画というものがございまして、こちらでは数値目標を定めております。現在消費額は1人あたり4,000円ほどですが、平成32年度は5,000円を目標としております。宿泊については、現在は97%が日帰りという現状がございまして。これは逆に言うと、都内から近いという立地もありますので、致し方ないという部分もあるのかなとは思いますが、やはり宿泊観光を平成32年度には3.5%にしたいと考えております。現在宿泊が3%ほどですので、これを0.5%上げたいと考えております。</p> <p>平成30年度の目標値が少し低いのではないかとご指摘ですが、72万人に向けての段階的な数字を機械的に載せただけでございまして、実際には平成28年度の704万人という数字も記録しておりますので、こちらを上回るような数字を目指しているというところが現状でございまして。</p> <p>3つ目のご質問の、外国へのPRということでございますけれども、観光事務では平成29年度は行ってないのですけれども、広報室でシティセール</p>

<p>仁平評価人</p>	<p>スという担当がございまして、そちらで予算を確保しまして、海外への PR を平成 29 年度に行いました。今年度につきましては、観光の方で予算を確保しまして、すでに 7 月に香港に出展をしております。今後、11 月に台湾、2 月にタイで観光 PR を実施する予定でございます。</p> <p>消費額と宿泊観光数については、観光客が増えれば、絶対数は増えますけれども、そこに内在している課題についても、ぜひ突き詰めてキャンペーンに結んでいただきたいと思います。あと、今川越市さんの方でおもてなし川越 DMO の設立を進めていると聞いていますが、今後どのようにやっていくのか、設立後どう考えているのか教えてください。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>DMO の設立に関しまして、所管が別の部署になりますので詳しくはないのですが、観光課で現在ロケーションサービス、ロケ地をテレビ局や制作会社に提供している事業があるのですけれども、こちらの事業をできれば DMO にやっていただいて、先ほどの観光協会の話ではないですが、行政という枠ではなくて、もっと裾野を広げてロケーションができれば良いなと考えております。</p>
<p>仁平評価人</p>	<p>私の意見としましては、観光キャンペーンを委託や指定管理者制度などを考えて、工夫をしてもらって、ぜひ川越を思う市民団体などの団体をうまく参入、または協働したりすることによって、観光客誘致の新たな切り口が見えてくるのではないかと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。</p>
<p>柳内評価人</p>	<p>何点か質問させていただきたいのですが、評価表の中で効率性を D にされているのですが、やはりお金がかなりかかっているということでこういった分析になっているのでしょうか。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>やはりコストの見直しというところができる部分があるのではないかと、特に直営でやっておりますので、見えないところのコストなのですけれども、職員の人件費を少しでも業務委託等で削減できればと、まだ具体的な検討に入っているわけではないのですが、キャンペーンを委託することで実際どのような費用がかかるというところは見てみたいとは考えております。</p>
<p>柳内評価人</p>	<p>効率性の分析にも書いてありますように、委託をするとコストがむしろ増加すると書いてありまして、ちょっと難しいところではあると想像できます。先ほどのご質問の中にもあったのですけれども負担金が多いというものもあるし、キャンペーンを行うとやはり費用がかかる、今の質疑の中でも、海外の台湾や香港でもやっていくということになると、やはり費用は膨らむ一方だと考えられます。そういったときに、効果の方をできるだけ上げるための手</p>

<p>観光課長</p>	<p>段をいろいろ考えられた方が良いのかなと思っています。観光客の数ということだけではなくて、先ほど話がありました宿泊をしていただくニーズであるとか、具体的にどのくらいの経済効果があるかとか、そういったところまで踏み込んで調査できると良いのかなと思います。</p> <p>質問ですが、積立金を平成27年度に元金を設置して、この3年間の運用といますか実績が出ていますけれども、3年間で半分近く、利子分だとかでプラスはありますけれども、やはりマイナスが多いですね。これはあと何年間かすると、また積立を積み増しするというお考えなのでしょうか。</p> <p>基金につきましては、地区の皆さんの状況等を話し合いながら、積立額につきましては状況を見ながら、財政課と協議をし、考えていきたいと考えております。</p>
<p>柳内評価人</p>	<p>わかりました。あともう1つ、先ほどの話と関連しまして、また戻ってしまうのですが、観光客数の数を捉えられていますが、中身の分析というのはどの程度までされてますか。外国人の方の比率が上がっているというようにおっしゃられてましたけれども、かなり細かく分析されていますか。川越祭りだけで、どのくらい増えているか減っているか、他はどうなのか、という分析の中身についてはどうでしょうか。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>それぞれのイベントですとか、観光施設でそれぞれの数字を出していますので、それをすべて合算した数字がこの662万8千人となっております。去年、川越祭りだけで言いますと、25万人の減でございまして、一方で氷川神社ですとか、時の鐘といったところの、いわゆる観光客、通行人のカウント数は増えております。</p>
<p>柳内評価人</p>	<p>今の25万人減だけで言うと、川越祭りが天気であったとしてもやはり平成28年度には追いつかなかったということですね。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>そうです、一番の観光シーズンの10月に台風が2週連続で上陸して、市内がだいぶ甚大な被害を受けておまして、その1か月に観光客がだいぶ減りましたので、天候というように捉えてはいるのですが、それだけではないと我々も認識はしておりますので、更なる分析はしたいと考えております。</p>
<p>柳内評価人</p>	<p>別の観点からみると、天候が悪くなると観光がしにくい街だというところがあるかと思います。まつり会館のようなところはありますけれども、そういう屋内型でも楽しめる施設がもう少しあると、少し変わってくる可能性はありますね。</p>

本田評価人	<p>そもそものところで聞いてしまうのですが、観光客の定義と申しますか、観光客はどのようにカウントしているのでしょうか。その場に市民がいたら、入ってしまうのか。という点が1点。</p> <p>また、先ほど実を結んでいるのかという話のつながりで、アンケートで出発地を確認していらっしゃるということですが、東武東上線沿線サミットの効果が出ているのかもお聞きしたいと思います。</p>
観光課担当	<p>観光客の考え方・基準は、観光庁の定めたものがありまして、平たく言いますと、非日常のものを観光と位置付けています。例えば、観光施設に入ること、伊佐沼公園のようなところで蓮を鑑賞したり、釣りをすることも非日常であると考えられますし、本市にはありませんが、大型のショッピングセンター、アウトレットも非日常と捉えられます。定義からすると、様々な非日常を数字として積み重ねています。</p>
本田評価人	<p>と申しますと、市民も入るということですね。</p>
観光課担当	<p>市民も入ります。</p> <p>2つ目のご質問の出発地ですけれども、都道府県別に言いますと、県内が一番多いのは、立地的な問題で仕方ないと思うのですが、次は東京都、都内から来る方が圧倒的に多いです。鉄道が三線あるということも大きいと思います。あとは、小江戸サミットの影響かどうかというのはありますが、栃木県・千葉県・茨城県からの観光客は大幅に増えております。これは圏央道の開通も大きな要素だと思われま。</p>
本田評価人	<p>それが、効果が出ているのではないかと申すことですね。</p>
観光課担当	<p>実際、香取市で観光PRをしても、川越を知っている方が増えておりますので、小江戸サミットの成果が上がっているというのは肌では感じております。</p>
本田評価人	<p>先程、今年度は鉄道三社の何か、今年から始められたとのことですが、そういったことの効果もあって、さらに拡大していこうとのことと申すのでしたのでしょうか。</p>
観光課担当	<p>鉄道会社が言うには、ライバルが手を組むということはかなり珍しいパターンとのことと申す。JR、東武鉄道、西武鉄道、皆さん理解があり助かるのですが、川越へ人を誘客しよう、とりあえず川越を盛り上げてもらって、その結果鉄道で来てくれたら嬉しいという方向で、鉄道3社からやろうと申すのでした。当然我々もそこに乗らない手はないということと申す。</p>

<p>池田評価人</p>	<p>年からということになりました。まず、川越の駅に日光だとか秩父の観光のポスターが貼ってあるのですが、それを JR でも、東武鉄道でも、西武鉄道でも、どの電車に乗っても、同じポスターが貼ってあるという、極めて珍しい事業を今進めておりまして、今その3社と連携して川越でイベントをやろうということを検討しております。</p> <p>いくつかお伺いしたいのですが、観光事務としては観光客を増やすということがやや広い意味での目標だと思うのですが、どこから来てどこに行ったのか、何時間くらい滞在したのか、それが日本の方、また海外の方だったらどうなのか、そういうところがわかってくると、それに応じてキャンペーンの打ち方だとかに変化が出てくるのではないかと期待しています。最近では専門の方でなくてもアクセスできるように、内閣府で出してるもので一部はわかるのですが、細かいところはわからない、川越市さんとしていったいどういってお客さんが来ているのかということが、アンケートぐらいになるのか、または、データを使わせてもらうやり方で、例えば滞在時間など携帯電話の発信情報を使ったりするそうですが、アンケート以外でもこういった効果的な情報収集のやり方をしているということがありましたら教えてください。</p> <p>それと関連して、そこからわかったことからキャンペーンの場所の選定にリンクされているのかについてお伺いします。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>まず、アンケート以外の調査というお話ですが、今年度から民間企業のオリックスと提携しまして、いわゆるお財布ケータイ、タブレットもそうなのですけれども、かざすだけで観光情報が読み取れる便利なシステムを川越市内の観光案内所や観光施設に置いてあります。これは日本語だけでなくその人の言語で出てくるものとなっています。例えば台湾の方がかざせば、台湾の言語で出てくる。これは全国200以上の自治体と連携して進めている事業で、川越に来る前、またその後どこでタッチしたかということを知ることができます。まだ今年度始めたばかりの事業ですが、そこから分析をすることを考えています。</p> <p>キャンペーンについては、都内でのキャンペーンを多く行っています。東京に観光に来る方が多いので、東京から川越にいかにか流すかということの一つの手段としています。都内でキャンペーンをするということは非常に有効と考えております。外国人の方はほとんど東京観光であって、その中でどこに行こうかと迷っている方が多い。今行っているキャンペーンは国内向けが多いので、もう少し外国人を対象とした PR を考えていきたいと思っています。例えば成田空港や、外国の方が爆買いするような商業施設での PR など。ただ、費用がかかるので、どうシフトしていくかというのは今後の課題だと認識しています。</p>

池田評価人	<p>感想を申し上げさせてもらおうと、東京でキャンペーンを行うことは一定程度価値があると思いますが、たぶんどこかで限界がある。海外の方に向けてのアピールであればですね、海外の方はある程度どこに行くのか決めて、そのうえで行動している方が多いのではないかと思います。とすれば、その前の段階でアピールする方法を考える方がより効果的であると考えます。</p> <p>2つ目ですが、目標設定を何にするかということはある程度考えても良いと思います。旅行者の数を増やすというのがありますが、数を増やすだけで良いのかということもありますし、一番重要なのはこれだけども、次に重要なのはこれ、という風に順位づけがあっても良いかと思います。</p> <p>3つ目ですが、川越は最近メディアへの露出が多いし、お客さんも本当にたくさんいらっしゃる。HPなどでもたくさん発信されていて、素晴らしいなと思っています。そのうえで伺いたいのですけれども、観光というイメージが固定化してるとした場合に、川越の新しい魅力やコンテンツについて、こういうことを考えてるだとかこういう光の当て方をしたいという発想がもしあったら伺いたい。また、その新しいコンテンツをどうアナウンスしようとしているのか伺いたい。</p>
観光課担当	<p>今、川越の売りと言いますか、うけているところは、氷川神社や熊野神社といったところのご努力で、縁結びの街というところがだいぶ浸透してまいりました。そこに少し乗っかって、街全体で何かPRできればと良いなと考えております。氷川神社では今ちょうど風鈴のイベントを行っていますが、昨年は2か月で35万人の参加があったと伺っています。そこを生かしていきたい。縁結びと言いますと若い女性が多いですが、若い女性をターゲットとした企画を考えていきたいと考えております。</p> <p>また、それに関連しまして、滞在時間の延長を図りたいと思っております。夕方から夜にかけても魅力ある街にしたい。どうしても夜は繁華街の方に流れがちなところがありますが、まだまだ北部の方の観光も夕方から夜にかけても面白い部分があるということを少しPRし、それが滞在時間の延長に繋がり、消費額の増加に繋がれば良いなと思っています。氷川神社に来た参拝客、観光客の方がバスに乗って駅まで帰られてしまっはもったいないということで、少しでも街中を巡ってみたいと思わせる企画を考えていきたいと思っております。</p>
観光課長	<p>補足といたしまして、現在はどうしても一番街を中心とした市街地に多くの観光客が集まっているという状況があります。まだ川越には新河岸や霞ヶ関地域など、新たな観光資源としての場所が多数あるかと思っています。例えば新河岸では、先日新河岸川でシルバー人材センターが行った舟運に、市外も含めかなりのお客様がいらっしゃいました。市外の方が多数いらしていたという状況がありますので、旧市街地またはそれに伴います周りの地域にも観</p>

	<p>光課としても目を向け、新たな観光資源として今後引き続き検討していきたいと思います。</p>
池田評価人	<p>アナウンスの方法で、これまでの延長線でないものがあるとしたら、どのようなものがありますでしょうか。</p>
観光課担当	<p>アナウンスの方法とすると、SNS の時代なので、できるだけ紙媒体に使っていた予算をデジタルに移行したい。また、クチコミを利用して、影響力の大きい方々に SNS を発信してもらい、何万人というフォロワーに川越のことを知ってもらうというところに着目しておりまして、埼玉県と共同で行っているものなのですが、国内外のインフルエンサーと呼ばれる方に SNS、インスタグラムを発信してもらうという事業を進めているところでございます。</p>
池田評価人	<p>観光客のターゲットに富裕層は入っているのでしょうか。また、どのように誘致する方策があるのでしょうか。</p>
観光課担当	<p>海外、特に東南アジアからの観光客はほとんど富裕層と聞いております。実際に我々の方でも東南アジアは最大のマーケットになると認識しております。今年特に着目しているのはインドネシアでして、人口 3 億人を超えている大きな国ですし、富裕層もかなりいるとのことで、中国並みに爆買いをする傾向があるという調査結果も出ておりますので、インドネシアに PR を行っているところでして、今年度、インドネシアの富裕層が契約している有料チャンネルに川越の観光プロモーション CM を流す予定でございます。</p>
池田評価人	<p>来ていただいたときに富裕層の方がどんな行動をするのかを想定されて、それに合わせて様々な考察をされることを期待しております。</p>
飯島評価人	<p>評価指標に観光客数が書かれていますが、これは、2 回目 3 回目だとか、また来たという方はどこまで把握されてますでしょうか。</p>
観光課担当	<p>観光アンケートでは、リピーターかどうかという調査も行っております。リピーターも増えてきているという印象はあります。</p>
飯島評価人	<p>観光客数など目標数だけを追っているといつか疲弊してしまうと思っています。私個人の意見ですが、観光協会と市のすみ分けの一つとして、市はキャンペーンに人を派遣するというよりも、頭脳を使う部分で、新しい施策を打つことに集中して欲しいと聞いていて思いました。おそらく他の自治体も客数を狙っていると思いますが、数を目的とすると本末転倒というか見えなくなってしまうので、リピーターがなぜリピートしたのかということの分</p>

	<p>析をどんどん深めていくと、人が人を呼んでくると思うので、そうすれば、人数をカウントする業務も必要なくなり、かかる費用を他に回せると思います。この事業として当然必要だと思いますが、客数だけを見てしまうということに対しては、早めに方向転換をお願いしたいなと思います。</p>
<p>本田評価人</p>	<p>評価シートに、観光キャンペーンは業務委託でも可能であるとありますが、他市の事例で、業務委託をどのくらいしているかわかれば、参考までに教えていただけますでしょうか。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>観光キャンペーンを委託しているかどうかは調査しておりませんので、今後調べてみたいと思います。</p>
<p>柳内評価人</p>	<p>先ほど池田評価人が話されていたことに関係してですが、海外からの観光客の方は来てからどこに行こうかではなくて、やはり来る前にどこに行こうか計画を立てている方が多いと思います。今日本で行われているキャンペーンあるいは海外でのキャンペーンも必要だとは思いますが、先ほど言われたインターネット上でどう魅力あるところを発信するかということが大事なような気がします。トラベル情報が入るようなインターネットサイトはいっぱいありまして、そういったところに海外の方がアクセスしやすいような形で情報を載せてあげる。最近は特にオリンピックを控えて、都内で宿を取るのが難しいという方は、ちょっと郊外で宿をとって東京に遊びに行こうということもあるようなことを聞いていますので、そういうことができるような情報を出してあげると、あらかじめ宿をここに決めて、ということをしていただけたらと思います。</p>
<p>池田評価人</p>	<p>池袋の駅を使うのですが、池袋に降りると、川越に行く海外の方がたくさんいらっしゃいます。その方々から意外に聞かれるのが、川越まで値段がいくらかというコストの問題を聞いてくる。海外の方はあまりお金を使いたくない、片道池袋から450円前後かかる。往復切符またはバスの周遊切符などを紹介しても海外の方はまだ高いと言う。日本人の感覚としては高くないのですが、海外の方は違う発想をしているとすれば、工夫が必要だろうと思います。とりわけ私鉄関連のケースが必要かと思います。ぜひ共同で組んで、1週間なら1週間自由に乗れるようなものがあるとずいぶん違ってくると思います。JRなら海外の方向けのものがありませんので、それに対応する私鉄バージョンがあれば随分違うだろうなと思います。</p>
<p>観光課担当</p>	<p>外国人向けの私鉄の企画乗車券は検討を進めているところです。西武鉄道・東武鉄道は1日乗車券で西武鉄道はイーグルバス、東武鉄道は東武バス付きのものを外国人向けで販売してもらっているのですけれども、確かに外</p>

	<p>国人の方で高いと感じる方もいらっしゃるというのは聞いております。もう少し安価なもの、もしくは西武鉄道でも東武鉄道でもイーグルでも東武バスでも良いというものがあればなお良いと思いますので今後検討していきたいと思えます。</p>
真下評価人	<p>鉄道会社の話を伺って、西武と小田急が対立していたときの箱根を思い出しました。あの頃は大変不便だったなと思ひ出しましたので、そういった考え方も当然あると思ひます。それはさておきまして、細かい話からなのですが、観光アンケートはシルバーとの随契とのことですが、シルバーとの随契に決まった理由は何かありますでしょうか。</p>
観光課担当	<p>高齢者の雇用促進のためとなります。</p>
真下評価人	<p>大ざっぱな質問で大変恐縮ですが認識をお伺ひしたいと思ひます。まず、観光に対する行政の役割は、所管課としてどのような範囲であるべきと思ひますか。</p>
観光課担当	<p>観光に対する行政の関わり方ですが、観光課といたしましては、自転車というなら補助輪の役割だと考えています。主体は、観光協会や民間の事業者、鉄道会社であると考えておりますので、それを補助する、自転車のよう倒れることはないのしょうけれども、倒れそうなときに支える役割と考えております。観光客を誘客するのは、市ではなく県や鉄道事業者に一生懸命やってもらいたいなど。我々は、来ていただいた方への受け入れ環境の整備を進めていきたいと考えています。</p>
真下評価人	<p>首都圏の中で年間700万人に迫るような観光客を誘致する観光都市は非常にレアな部類に入るかと思ひますが、そういった観点でみた場合に、観光課さんとして、現在の観光都市としての川越はどのようなポジションにあると認識されてますでしょうか。</p>
観光課担当	<p>県内では最高位であると認識しております。ただ一方で埼玉県自体が観光施策の予算規模は全国で最下位ですので、東京からも近いので、まだまだ何かできるのではないかと考えています。先頭にたつて埼玉県を引っ張っていくというポジションであるとの認識でいます。</p>
真下評価人	<p>先ほど氷川神社さんの話がでましたが、これは誰が思ひついた話でしょうか。</p>
観光課担当	<p>氷川神社です。</p>

池田評価人	駅にある観光案内所は観光課さんの所管でしょうか。
観光課担当	観光課の所管です。
池田評価人	オリンピックなどたくさんの方が来てくれることが期待されるときに、川越や本川越観光案内所の外国語対応を含め具体的な計画はありますか。
観光課担当	<p>川越駅と本川越駅の観光案内所はカテゴリー2という位置づけがありまして、外国語が話せるスタッフが常駐しておりますので、どこまで話せたら良いかというところで、英語だけでなく、本市は台湾や香港の観光客が多いので、そちらの言語も話せるスタッフがいた方が良いとは認識しております。</p> <p>あと全体としては、オリンピックのときなど、おもてなしという言葉が世に出ておりますが、まさにその通りだと思っております。どうおもてなしをするかというところに着目しております。あとは、外国語が話せるボランティアガイドの養成に重きを置いています。あと2年ないですが、その期間でどれぐらいのボランティアガイドの方を育成・養成するかというところに重きを置いて事業を進めているところです。</p>
真下評価人	<p>それでは、評価人の皆さま、評価と付帯意見の記入をお願いいたします。</p> <p>③評価結果発表</p>
真下評価人	それでは、各評価人から、まずそれぞれの点数を仰っていただいた上で、ご意見をいただければと思います。
仁平評価人	<p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性4点、方針妥当性4点、合計20点としました。</p> <p>効率性は、話を聞いていますと、観光キャンペーンやカウント調査業務委託の費用に関しましては疑問が残りました。また、一番街を中心に一極集中している現状の解消、駐車場の問題の解消が必要となってくると思います。ぜひ、一極集中型ではなく、私の個人的な意見ですが、どこか離れたところにプロスポーツの誘致をされたりなど、幅広く大局を見ながら、より良い方向にいくようよろしくお願いします。</p>
本田評価人	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性4点、効率性4点、実効性4点、方針妥当性5点、合計22点としました。</p> <p>時代適合性、方針妥当性は、妥当であると考えます。行政の関与の妥当性、</p>

柳内評価人	<p>効率性、実効性についてはもう少しできる取組があるのではないかとこのところから4点としました。引き続き、観光客の分析をし、傾向を捉えていくことが大切であると思います。また、職員さんの視点で色々なアイデアを取り入れていると思うのですが、業務委託という視点も、委託業者の強みを生かしながら実施できると思いますので、新たな視点での内容も取り入れられるのかなと考えます。もう少しそういった業務委託のメリット・デメリットという視点についても検討してみてもいいかなと思いました。</p> <p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性4点、方針妥当性4点、合計20点としました。</p> <p>行政の関与の妥当性については、川越とは一つの面で確実に観光都市であると思います。そういう意味では、時代に関わらず、行政も関与していくべきだと思います。効率性について言いますと、事業の性質上、効果に対し費用が多くなる事は仕方がないところがあると思います。その中でも、できるだけ経費を抑えようと、あるいは負担金を見直そうという方向性は理解できます。ただし、観光客数だけではなく、滞在時間や消費等の経済効果に直結する指標を考えてはいかがでしょうか。方針妥当性はおっしゃる通りの方向を着実に進めていくことが大事だと思います。また、魅力ある情報発信や滞在しやすい街の在り方、また、交通状況や施設の在り方も検討すれば良いと思います。</p>
飯島評価人	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性3点、効率性3点、実効性3点、方針妥当性4点、合計18点としました。</p> <p>行政と観光協会の棲み分けをもっとハッキリとして、行政は法令緩和、企業間の調整、観光ビジョンの種まき等、違うところで頭脳を使ってほしいと思います。また、より未来も観光が発展するような予算を使ってほしい。広報ももっと観光大使やインフルエンサーにつかってください。行政が観光に着手するのは引き続いてほしいですが、「他の目標設定の検討」や、「観光に来た人が幸せになる」観光をつくってほしいと思います。一番街だけではなく、農業滞在型観光などの自然や緑を活用した観光や、地域住民と観光客とのコミュニケーション推進など、違うスタイルの観光コンテンツも手掛けてほしいと考えます。</p>
池田評価人	<p>時代適合性5点、行政の関与の妥当性5点、効率性5点、実効性4点、方針妥当性4点、合計23点としました。</p> <p>これまでは非常に観光課の方だとかが工夫されて、こういう成果がでていると思いますが、川越という街に、もっと斬新な光の当て方を期待したい。「なるほど、川越はこうきたか！」と思わせたい。また、これまでの施策は素晴らしいと実感しているが、従前の施策を継続するのみで良いのかという</p>

<p>真下評価人</p>	<p>疑問もあります。違う光の当て方ができれば、調整役としての行政だけではなく、作っていく、光を当てていく、発見していく、という大きな役割も出てくると思います。将来についてのもう少し思い切った展望を期待しております。</p> <p>時代適合性4点、行政の関与の妥当性5点、効率性3点、実効性5点、方針妥当性3点、合計20点としました。</p> <p>行政の役割は「補助輪」との認識は、非常に適切と感じますが、川越への「呼び込み」も、また川越市の役割と考えます。県、鉄道事業者は共同事業者として位置付けるのが望ましいのではないのでしょうか。一方で、近年では、SNSの存在が大きな意味を持つことも当然であり、「観光PR」の実施のみならず、これに対応できる「まちづくり」もあわせて視野に入れるべきではないのでしょうか。市民や事業者との連携もこうした観点からのものが望ましいと思います。川越市は、市民・事業者からのコンテンツの提案は充実しているように思われるので、これに見合った適切な事業展開が求められると考えます。</p> <p>観光事務の合計点は123点となりました。評価としては、事業の在り方は概ね妥当という判定となりました。あくまで参考でございますので、こういった評価となった、また評価人からこういった意見がついたということをご参考にしていただきまして、引き続き頑張っていたいただきたいと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。それではこれもちまして、平成30年度事務事業外部評価を終了いたします。</p> <p>外部評価人の皆様、長時間ありがとうございました。</p> <p>4 閉 会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>